

30周年記念号に向けて 2022年に取り組みたいこと

藤江 龍登

1. 新カメラの導入

2021年末の協栄のウインターセールに乗せられて、ZWO ASI 2600MC Pro SALE KIT（フィルタードロワー M42 +2 インチ DuoBand フィルターセット）という冷却 CMOS カメラのセットを買ってしまいました。高解像度で散光星雲や反射星雲も撮りたくなり、結果、道具をまた一つ増やすことになりました。



ASI2600MC Pro のスペックは以下のとおりです。

- ・ センサー : Sony IMX571
- ・ センサーサイズ : 23.5 × 15.7 mm ASP-C
- ・ 解像度 : 6248 × 4176 Pixel
- ・ ADC : 16bit
- ・ ピクセルサイズ : 3.76 μm
- ・ リードノイズ : 1.0e-3.3e

比較として、Nikon D810A の解像度が 7360 × 4912 Pixel、Canon EOS6D MK II の解像度が 6240 × 4160 Pixel ですので、ほぼ EOS6D と同じくらいの解像度の ASP-C サイズセンサーの冷却 CMOS カメラとなります。

2. 手持ちの冷却 CMOS カメラとの使い分け

- ・ ASI294MC Pro (4/3 インチセンサー ASP-C 解像度 4144 × 2822 Pixel)
→ 従来どおり星雲、星団の撮影、大きな系外銀河 (M31 M33 M101 など) の撮影用。
- ・ ASI533MC Pro (対角 16mm 正方センサー 解像度 3008 × 3008 Pixel)
→ 正方形のセンサーは使い勝手がよく向きを気にせずに、丸形やエッジオン等の系外銀河撮影用。
- ・ ASI183MC Pro (対角 16mm 1 型センサー 解像度 5496 × 3672 Pixel)
→ 解像度は高いものの冷却してもアンプグローが目立つので、もっぱら月撮影専用。
- ・ ASI385MC cool (1/1.9 インチセンサー 解像度 1936 × 1096 Pixel)
→ 感度は高くないものの長時間露光出来るので、長焦点と合わせて小さい系外銀河撮影用。

3. 新カメラでの撮影対象

新たに入手した ASI2600MC Pro の購入目的は、短焦点レンズと組み合わせて前述のような散光星雲や反射星雲を撮ることなのですが、ベランダからテスト撮影してみると、画角が広がる分、近傍の LED 街灯などの色被りの影響を受けやすいことも判り、その対策も考える必要があります。

ただ、まだ山の上で試していないので何とも言えませんが、6248 × 4176 Pixel の解像度と冷却 CMOS の効果で、淡い星雲、星団だけでなく、広範囲に広がる星間ガスも写せるのではないかと期待しています。

30周年記念の写真展では、そのような作品をお見せ出来る様に精進したいと考えています。

以上